レッスン：SPA NO.26

テーマ：部屋のなかにおけるワークの分析

SPA.26/DOC/K702

私の姉妹・兄弟たち、

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性に包まれています。

これまでのレッスンでは創造界における様々な現れについて話してきました。それらの現れの一つは人間のイデアを通じたロゴス的現れであり、もう一つはいわゆる聖霊的現れであり、それは絶対存在のダイナミックな現れです。この聖霊的現れを通じて様々なアークエンジェルのオーダーがあります。

しかし、それらが創造界における現れの全てではありません。絶対存在のあらゆる特質の現れがあり、絶対英知はすべての現れのなかにあり、絶対善および絶対パワーがあります。これら三つの現れはキリストロゴス絶対存在のなかに現れています；しかし、一つの現れとして、このロゴス的特質および絶対存在の本質は汎宇宙的キリストロゴスとして現れており、それは創造界における生の海です。それは意識の海であり、また創造界にはその現れを通じてあらゆる元型、イデア、法則、原因があります。

その他の現れもあるのでしょうか？あります。しかし、私たちはそれらの他の現れについてはあまり良くわかっていません。いわゆるドミニオンというものがあり、それは奉仕するために下降してくるのですが、それらは聖霊的イデア、聖霊的下降を通じて奉仕するのではなく、それらはロゴス的現れです。それらのドミニオンが自己実現したスピリットか否かについて私たちは全くわかりません。それらについて私たちが知っている唯一のことは、絶対存在の他の三つの現れ…つまりロゴス的現れ、聖霊的現れ、そして生の海…に奉仕するためにそれらが創造界に下降し、現れているということです。

ですから生それ自体の世界、それらの諸世界のなかにはそれらの現れがあり、それら全ての現れは**深内奥のセルフ**と完全に同調しています。神の黙想はそれらの主な特質であり、それらは黙想を現すことはせず、黙想はスピリットとしての深内奥のセルフとは異なっています。唯一の違いは、それらは今やこの神の黙想のなかの一つの現れであるということです。それらは神の黙想のなかで活動しており、それらは活動のなかに入ったのです。絶対存在のアウタルキーのなかには、この神の黙想の活動に参加しないスピリット・セルフもいます。ですから、何であれ創造の諸世界で現れるものは神の黙想の活動のなかに入る必要があります。言い換えれば、創造界ですら神の黙想の結果です。

過去に、創造界においては全てはマインドである、マインドを通じてさまざまな現れがある、と述べました。それではマインドとは一体何でしょうか？マインドとは聖霊であると信じているグループもありますが、それは間違っています。確かにマインドは聖なるものです。なぜなら、それはそれらの諸世界のなかで絶対存在によって投射されたものだからです。しかし、マインドは創造界のなかであらゆる諸世界が築かれるための手段です。しかし、マインドが形を帯びるためには生のスパークが活性化される必要があります。そしてそのスパークは生の海なのです。それは絶対存在のロゴス的本質であるキリストロゴスです。

Page 2

しかし、マインドが形を帯びるためには絶対存在のダイナミックな現れが必要であり、そのためにさまざまなアークエンジェルのオーダーがあります。そして今や四つのヘブンである存在の諸世界の創造があり、また三つのヘブンである実存の諸世界があります。

実際には、築くための実際の仕事は実存の諸世界にあります；スーパーサブスタンスの世界である存在の諸世界、そこにはスーパーサブスタンスとしてのマインドがあります。それらの諸世界は元型、イデア、法則、原因としてだけの世界であり、そこにはそれらすべてがあります。そこには結果はありません。そこには活動、振動、バイブレーションがありますが、実際に活動しているもの、振動しているもの、バイブレートしているものはありません。結果の可能性はありますが、ステートしてのみ存在し、現れてはいません。私たちがステートというとき、それは可能性という意味です。

さて、前に述べたように私たちは実存の諸世界に入り、人間は今やそれ自身を現在のパーソナリティーとして現しています。そしてまた、ノエティカル界、サイキカル界、物質界という三つのヘブンを築いているアークエンジェルのオーダーがあります。ですから、現在のパーソナリティーは今やそれら実存の三つの世界のなかで活動します。多くのレッスンで述べたように意識は今や限界のなかに入り、生の現象としての生がありますが、それはその真の本質としての特質を表現していません。

無知のなかにいる間は人間は地にフォーカスしており、そのようなフォーカスの結果としてその人は多くのイリュージョンを現わしています。部屋のなかに人間がいますが、それはその人の無知の部屋です；言い換えれば、それは現在のパーソナリティーの部屋です。現在のパーソナリティーは無知のなかにいる間は死者とみなされます。何故でしょうか？なぜなら、そのパーソナリティーはその真の本質を現わしていないからです。ですから、私たちは真の本質の表現に向けて努力すべきです。

現在のパーソナリティーと多くのシンボルとの関係について述べてきました。それらのシンボルのなかには四面ピラミッド、三面ピラミッド、五面ピラミッド、六面ピラミッドなどがありますが、もう一つあり、それは一面ピラミッドです。それは円錐形です。しかし、現在のパーソナリティーの無知にもっとも関係しているのは四面ピラミッドです。四面ピラミッドはまず、四つのエレメントを通じて無知のなかに入ることを意味しています。人間はそれら四つのエレメントの使用を通じて無知のなかに入ったのです。

そうです。その結果として現れのために、このバイブレーションにおいて、物質界のなかで五感を使用します。しかし真の感覚は五つの超感覚です。そして上向きの五芒星（それはパーソナリティーの五つの真の感覚を意味する）の代わりに下向きの五芒星があり、不幸にも五つの真の感覚は眠りの状態に入ってしまったのです。現在のパーソナリティーはそれを使用しているにもかかわらず、パーソナリティーはそれに気づいていないのです。

そのパーソナリティーが肉体を使用するのを止め、思考あるいは感情の活動が始まると、五つの超感覚が使われます。しかし、そのパーソナリティーはそれに気づきません。ですから今でも、無知のなかにいても現在のパーソナリティーは意識的ではなく無意識的に五つの超感覚を使用しています。私がやるべきことはそれらの五つの超感覚を意識に使うようになることです。

四面ピラミッドについて話していますが、このシンボルがモニュメント（建造物）として存在していないでしょうか？世界中のあちこちにこのモニュメントを見いだすことができるので見て下さい。何故それらの建造物が人間によって築かれたのでしょうか？実際、それは何を意味しているのでしょうか？なぜなら、人間が築いたものは何であれその背後にリアリティーがあるはずだからです。ファンタジーでさえもリアリティーの結果です。無からは何も現れません。

さて、それらのリアリティーを人間がいかに解釈したか、それは全く別の話です。それは気づきのレベル、理解のフィルターによって異なります。墓として使用されるために、そしてまたそれらのシンボルを不適切に使用することによってパワーと能力を現わすために築かれたそれらのモニュメントがあります。

Page3

さて、実際この四面ピラミッドと人間との関係とは何でしょうか？この四面ピラミッドを通じて、四つのエレメントの使用を通じて、言い換えればそれら四つのエレメントのなかに入ることによって人間は無知のなかに入ったのです。それではこの四面ピラミッドと人間との関係とは何でしょうか？まず、人間はこの四面ピラミッドの下の離れた地中にある現在のパーソナリティーの部屋にいます。そしてこの部屋は人間の無知を意味していますが、同時にそれは人間を守っています。無知はまた守りでもあるのですが、人間はそこから出ようとする必要があります。それは簡単ではありません、出るまえにその部屋のなかで多くのワークをする必要があります。

ですから、四面ピラミッドの下に部屋があり、ピラミッドの各面は自然のエレメントを示しています；一つの面は火のエレメント、次は水のエレメント、次にエーテルのエレメントあるいは空気のエレメントです。そして火のエレメントにはミカエルのオーダーがあり、水にはガブリエルのオーダーが、そしてエーテルにはラファエルのオーダーがあります。しかし、四つ目のエレメントは何でしょうか？四つ目のエレメントはピラミッドの底部、土です。四つ目のエレメント、土はどうでしょうか？それにはサミュエルがあり、それはルシファーのエレメンタルです。

それでは四面ピラミッドの四つ目の面はどうでしょうか？四つ目の面、それは実際には鏡であり、その面にはもう一つのアークエンジェルのオーダーがあり、それは他の三つのアークエンジェルのコーディネーターとしての仕事をしており、それはウリエルのオーダーです。

ですから、ウリエル、ミカエル、ガブリエル、ラファエルがあり、四つのエレメントが物質界を築いているのです。しかし、現在のパーソナリティーは物質だけではありません。サイコノエティカル界についてはどうでしょうか？そこにも四つのエレメントがあるのでしょうか？前に述べたように様々なバイブレーションのマインドがあり、全てはマインドであり、マインドから成っています。しかし様々なバイブレーションのマインドがあり、スーパーサブスタンス、サブスタンス、超物質、物質という異なったバイブレーションのマインドがあります。四つのエレメントは物質のバイブレーションのものです。

それでは超物質における四つのエレメントはどうでしょうか？超物質の諸世界では、四つのエレメントはそれらの世界に入る人間のイリュージョンとして創られます。勿論、ノエティカルの諸世界についても同じです。実際、超物質、サブスタンスの諸世界には四つのエレメントは存在しません。しかし、現在のパーソナリティーが自分自身を物質のなかで表現するというイリュージョンのゆえに、それらより精妙なバイブレーションのマインドを物質として使っているのです。

しかし、実際、創造界には四つのエレメントしかないのでしょうか？答えはノーです。実際、創造界には七つのエレメントがあります。しかし、三つのエレメントはこの世界、つまり物質として親しんでいるこの四つのエレメントの世界のものではありません。

エーテル・バイタリティーとしての他の三つのエレメントとはエーテル、磁気、そして何でしょうか？磁気があるためには何が必要でしょうか？動き、活動が必要ですが、それは何を創りだすでしょうか？何の活動が必要でしょうか？エーテル、そしてマインドとしての手段、そして何が生じるでしょうか？電気が得られ、その時初めて磁気が生じます。ですから、実際に創造界には四つではなく七つのエレメントがありますが、それら他の三つをマスターするためには現在のパーソナリティーが自己実現に到達している必要があります。

さて、四面ピラミッドに戻りましょう。人間がドアーを開け、自分の部屋から出て、地中のなかの距離を旅し、四面ピラミッドの中に入ってその中に立つことができる能力の状態に達した時、その時に真のワークがスタートします。気づきの上昇に向けての真のワークがスタートするのは四面ピラミッドのなかであり、それは現在のパーソナリティーが意識的意識のセルフ・エピグノシスを現わし初めるようになってからです。それはつまり、潜在意識的セルフ・エピグノシスという意識の現れを現在のパーソナリティーが背後に置くようになる、ということです。私は勿論、一番目のレベルである本能的意識のセルフ・エピグノシスについては述べません。なぜなら、人間は最初は本能的意識のセルフ・エピグノシスを現わし、それからゆっくりと、徐々に潜在意識的セルフ・エピグノシスを現わすようになり、四面ピラミッドのなかに立つようになるとき初めて人間は意識的に自分自身を現わすようになるのです。

Page4

そして今や四面ピラミッドのなかでそのパーソナリティーは四つのエレメントをマスターすることを通じて、四面ピラミッドのなかで上に向けて昇っていくのです；昇るというとき、それは何を意味するのでしょうか？真の質である生の特質をもっともっと現わすことであり、昇るということは調和の法則、言い換えれば創造の法則をマスターすることを意味します。それがサイコノエティカルな成長です。もし私たちがこの地球上の様々な場所にあるそれらのモニュメントの一つを調べれば、確かにそこには様々なレベルに様々な通路、部屋があります；しかし、実際にそれらのピラミッドを築いた人々はそれらのモニュメント、それらのシンボリズムの背後にあるリアリティーを知っていたのでしょうか？ノーです。彼らが知っていたことは、そのピラミッドに関するテクニックを通じて何らかのパワーと能力を現わすことができる、ということでした。

しかし、私たちがこの四面ピラミッドのなかを上昇するにつれて、それら四つのエレメントをよりマスターするようになります。しかし、そのピラミッドは完全ではありません。ピラミッドを完成させるためにはその屋根から外に出る必要があり、その時初めて人間はピラミッドの上に立ち、そのポイントを完成することができるのです。なぜならばピラミッドのポイントは完成されておらず、人間がその頂上に立つ時それは完成されるからです。そして、その時初めて人間は自己実現に到達し、運動・感覚・刻印の三つのエーテルの特質、さらに四つ目のエーテルの特質をもマスターすることになります。四つ目のエーテルとは無知のなかにいる現在のパーソナリティーのものではなく、それは創造エーテルです。自動的に創造エーテルが加わり、物質化と非物質化の能力が与えられ、さらにまたエクソマトシスの現象も与えられます。

現在のパーソナリティーはサイコノエティカル体に意識を転送することによって肉体からサイコノエティカル体を切り離すことができるようになり、今や肉体とは全く異なった体としてサイコノエティカル体を超意識的に使うことができるようになります。なぜなら肉体は聖霊の両手に委ねられ、さらに肉体はシルバーコードによってサイコノエティカル体とつながっています。シルバーコードはサイコノエティカル体から肉体へとエーテル・バイタリティーをつないで、ダブル・エーテリックを活性化します；さもないと、もしこのシルバーコードが切断されると、肉体は崩壊の状態になります。

ですから、エクソマトシスの能力、物質化・非物質化の能力、そして現在のパーソナリティーの素質的能力のサイクルに含まれている全ての特質を超意識的に現わすためには、人間がピラミッドの頂上に立つことが必要です。これは現在のパーソナリティーの進化に関して非常に重要な段階です。

しかし、人間は今どこに立っているのでしょうか？人間は今部屋のなか、墓にいます。この部屋のなかで私たちは前に述べた全ての様々なシンボリズムのワークを行うのです…三面ピラミッド、一面ピラミッドなどです。しかし、それはただのシンボルであり、それは四面ピラミッドのなかで使用される真のシンボルの影にすぎません。覚えておいてください、この部屋の中で経験的知識として表現されるものは全て、経験的知識ではなくイリュージョンにすぎません。多くのイリュージョン、それらがゆっくりと能力、現在のパーソナリティーが部屋から地表まで旅する間に直面するための必要な手段を与えてくれます。

それでは地中には何があるのでしょうか？非常に低いバイブレーションのエレメンタルであり、それらは人間が時間のなかで創造したものです。勿論、それらは無知に奉仕する悪魔的エレメンタルとみなすことができます。そのために部屋のなかで多くのワークが必要なのです。私たちは決してこの部屋（それは言い換えれば私たちの無知ですが）の窓、ドアー、穴を開けようとしてはいけません。開けることによって入ってくるすべての結果に直面する準備ができるまでは。

ですから、探究者はこの部屋のなかで多くのワークをするよう求められていますが、前に述べたように、真の経験を提供する本当のワークは探究者、そのパーソナリティーが四面ピラミッドのなかに立つときから始まります。つまり、パーソナリティーが自分自身を意識的に表現する時からです。

Page 5

私たちの部屋における最初の目的は創造界において、特に実存の諸世界において現在のパーソナリティーに付き添っているそれらのアークエンジェル達と“接触”することです。そして現在のパーソナリティーには五つのアークエンジェルが付き添っています。いわゆるミカエル、ガブリエル、ラファエル、ウリエル、そしてまた守護天使もいますがそれは天使ではなくアークエンジェル（＊大天使）です。ですから五つのアークエンジェルが付き添っていますが、私たちのやるべきことはまずミカエルと接触することです。それが初めにするべき目標であり、次はガブリエル、三番目はラファエル、四番目はウリエルであり、ウリエルは私たちが他の三つのアークエンジェルのワークを認識するのを助けてくれます。私たちに自分の弱点、欠点を認識させてくれるのはウリエルです。

守護天使についてはどうなのでしょうか？この場合には、それと接触するための努力をするということではありません。なぜなら、パーソナリティーが啓発に向けて引っ張られる時、それを行うのは守護天使であり、また内側にある生のスパークだからです。ですから、守護天使は現在のパーソナリティーを活性化するもの、つまり生のスパークと協同作業します。私たちのスパーク、それは人間のイデアの降下の結果として引き出されるスパークですが、それは現在のパーソナリティーにおける罪の意識として現われています。

ですから、四つの側面、つまり四面の壁の部屋で行うべき多くのワークがあります。私たちはこの部屋で様々なシンボルの中で上昇を試みますが、またミカエルによって提供される梯子を昇ることも試みます。それはエゴの様々な側面を意味し、部屋の四つの壁で行われるワークの時の四つの同調に加えて、様々なアークエンジェルのオーダーとの同調を示すヤコブの梯子をも意味します。しかし、繰り返しますが、これは真のワークが始まる前の練習です。それはあたかも俳優が舞台上での本番前に行う練習のようなものです。舞台での本番前に準備する必要があります。

ですから、大いに練習が必要であり、練習することによって経験を積み、最終的にはこの無知の部屋から出るために必要なものを現す、あるいは得ることになります。しかし、それでもまた私たちは無知から解放されていません。完全な解放は現在のパーソナリティーの自己実現に到達するときです。ですから次のレッスンでは部屋のなかでのワークをスタートし、そこでやるべきことはたくさんあります。勿論、これまでもいくらかのワークを行ってきました。必要なことは忍耐です。あなた方には忍耐が求められ、また自分自身および同胞の人間に対する責任を表現する必要があります。

私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

それではあなた方からの質問です。

質問：私たちはまずフォーカスすることによってミカエルとコンタクトすると言いましたが、何にフォーカスするのですか？真実ですか？

Ｋ：今日の夕方述べたことは、与えられたエクササイズを通じて過去に与えられたもの全てと関係しています。いかにフォーカスするかというエクササイズを提供しました。自分が回転してフォーカスし、それらのアークエンジェルたちとの同調を試みます。まず現在のパーソナリティーに付き添っているアークエンジェルと同調し、それを通じて各アークエンジェルが示しているオーダーに同調します。

質問：あなたが先ほど述べたドミニオンの現れについて例を挙げてくれますか？

Ｋ：ドミニオン、前に述べたように私たちはドミニオンについてはあまりよくわかりません。創造界には様々なロゴスがあります。例えば、惑星のロゴス、太陽系のロゴス、銀河のロゴス、超銀河のロゴスなど、それらのドミニオンには段階があります。パーソナリティーはそれらのドミニオン、あるいは惑星のロゴスと同化することができる、と多くの神秘家は過去に信じ、今でも信じています。しかし、それは間違いです。私たちは同化することはできず、人間としての私たちは惑星のロゴスになることはできません。確かにある程度までは同調することは可能であり、同化ではなく同調を通じて惑星を抱くことはできます。同化、それは前に何回も述べたように実存の諸世界のものではなく、生それ自体の世界のものです。私たちが高次ノエティカル界、つまり不定形の世界、スーパーサブスタンスの世界に入ると（なぜならばスーパーサブスタンスは実存の諸世界にもいくらか入っているからです）、その時私たちはこの惑星を抱くことができます。しかし、それは惑星との同調を表現することによってです。

ですから、それらのドミニオンがあり、また私たちにはアプローチ不可能な他のドミニオンもあります。私たちは存在の諸世界についてはあまり多くを知りません。それらの世界について私たちにわかっていることは、他の兄弟たち、つまりそれらの世界のリアリティーを“生きている”実体によって教えられたものです。勿論同じ事は絶対存在のアウタルキーのステートについても言えます。私たちには何もわかりません。それは与えられたことであり、全て魂のセルフ・エピグノシスとしての生のスパークとの同調による結果です。同調です。しかし、それをいかに解釈するかは全く別問題です。私たちはそれらの世界のリアリティーの光と向き合うことはできません。私たちには何もわかりません。私たちにわかっていることは相対リアリティーの様々なレベルです。

たとえ魂としても、私たちが存在の諸世界における魂に戻っても、その時でもテオーシス、一であることのリアリティーについてはわからないでしょう。ですから二元性のなかにおいて、バランスの世界のなかでの長い道のりがあります。しかし、調和の世界に入るとき、調和とは生であり、生の海です。私たちがその生の海に入るとき、そこには時間の意味はありません。なぜなら、意識として私たちは“あまりにも速く”移動するからです。

いいですか、現在のパーソナリティーとして存在している時でも、あなた方は思考の速度で移動することができるのです。想像できますか、神の黙想の速度、それは思考とは全く関係していません。全てなのです。それについて描写することはできません。

A.SPA26/DOC/K702